

団体名

大分県

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

G

事業費総額 945千円

意識啓発・地域づくり

事業名

外国人とのコミュニケーション拡大事業

概要

県内在住外国人と地域住民とのコミュニケーション拡大を図るため、社会教育施設を核とした「やさしい日本語」の学習活動、交流活動や普及の取組みを推進した。

事業のポイント

◇在住外国人を、地域社会の一員として受け入れていく意識を醸成するため、地域住民に対し、公民館等の社会教育施設を活用し、日本語を「易しく」表現(はっきり・最後まで・短く)して、相手を思いやりながら「優しく」伝えるコミュニケーションの手段である「やさしい日本語」についての学習や外国人との交流機会を提供する事業を行った。

事業の背景・目的

◇入管法改正による新たな外国人材受入のための在留資格が創設される中、今後、大分県においても在住外国人の増加が見込まれる。言葉や文化の違いを超え、地域社会の一員として積極的に受け入れていくためには、在住外国人と地域住民との円滑なコミュニケーション機会の拡大が必要である。

◇地域住民や社会教育関係職員を対象とした「やさしい日本語」に関する学習会や外国人との交流活動などを実施し、積極的な交流意識及び相互理解意識を醸成することにより多文化共生社会の実現を目指す。

事業の詳細

1、「やさしい日本語」についての学習

【講義・助言】

立命館アジア太平洋大学言語教育センター長 本田 明子 教授

(1)「やさしい日本語」講演会

○期日・会場・参加者数：

①9月12日(土)、別府ビーコンプラザ、65名

②9月13日(日)、中津市教育福祉センター、31名

○内容：講義(「やさしい日本語」の概要や目的、活用について)

(2)「やさしい日本語」地域住民向け学習会

○期日・会場・参加者数：

①10月26日(月)、別府市中央公民館、23名

②11月9日(月)、中津市今津コミュニティセンター、21名

○内容：演習(『やさしい日本語』への書き換え・会話)

(3)「やさしい日本語」行政職員向け学習会

○期日・会場・参加者数：

①11月6日(金)、別府市中央公民館、9名

②11月20日(金)、中津文化会館、25名

○内容：講演会の内容と学習会の内容を併せたもの

(4)「やさしい日本語」実践交流会

○期日・会場・参加者数：

①1月16日(土)、別府市中央公民館

地域住民15名(うち外国人5名)

②3月7日(日)、中津市如水コミュニティセンター

地域住民20名(うち外国人12名)

○内容：「やさしい日本語」を使った交流ゲーム

2、「やさしい日本語」の普及・啓発

(1)「やさしい日本語」リーフレットの作成・配布(4, 200部)

(2)「やさしい日本語」学習用動画の作成・公開(2本)

実践交流会(別府市)



実践交流会(中津市)



事業実施における工夫点・事業の成果等

- モデル地域(別府市・中津市)においては、講演会(普及促進・交流啓発)→学習会(活用についての演習)→実践交流会(外国人との交流の実践)と、地域住民に対して段階的に「やさしい日本語」の学習を進めることができた。
- 講師に年間をとおした講義や指導助言を依頼し、一貫して学習を実施することにより、きめ細やかな指導のもと、最初から続けて参加した人も途中から参加した人も、戸惑うことなく活動することができた。
- 実践交流会に参加した地域住民 18 名中 17 名が「外国人とのコミュニケーション手段として有効だと感じた」と答え、外国人参加者全員が「相手が話す日本語を理解できた」と回答した。

- 県立図書館が運営する生涯学習情報提供サイト「まなびの広場おおいた」に、[リーフレット](#)や動画を掲載すると、県内外から「やさしい日本語」についての問合せがあった。外国人とのコミュニケーションという新たな地域課題解決に向けた方策についての関心の高さがうかがえた。

リーフレット (表紙)



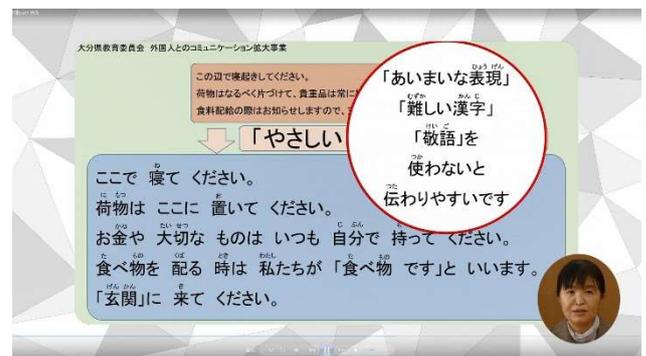
動画 (第1回紹介編・第2回活用編)

今後の課題・(コロナ禍の状況を踏まえた) 将来に向けての展望等

- コロナ禍で、外国人を取り巻く環境は一層厳しさを増している。地域で在住外国人を支えるためにも、「やさしい日本語」を使ったコミュニケーションの有効性を県内各地に周知することは喫緊の課題である。
- 最も苦労したのは、参加者の募集である。地域住民への拡大と指導者育成の観点から、より多くの住民に参加してもらうため、募集方法の見直しや、参加対象者への働きかけの工夫、オンラインでも実施可能な学習プログラムの企画等に取り組み、「やさしい日本語」体験者の裾野を拡大していきたい。
- リーフレットは、今後実施予定の「やさしい日本語」関連事業の新規参加者に配布する他、県立図書館の他事業への参加者にも配布し、周知を図りたい。また、動画については、「まなびの広場おおいた」での公開以外にも、市町村にDVDを配布し、県内への普及を図り、学習会での活用等を促したい。次年度は、より具体的な生活場面での「やさしい日本語」活用例を示した動画を作成する予定である。

- 今後は、地域の中での身近なコミュニケーションの活性化に向け、地域住民に対して、社会教育施設等における「やさしい日本語」の学習機会を増やし、内容もさらに深化させたい。そして、その地域住民が指導者やサポーターとなり、公民館等において「やさしい日本語」講座等を開催することで、「やさしい日本語」のさらなる普及と、在住外国人との交流の活性化を促進させていきたい。

「やさしい日本語」学習用動画の一コマ



事業担当者のふりかえり

地域の持続的発展を目指すうえで、外国人にとって「住みやすい・居心地の良い」地域社会の構築は不可欠である。その実現のために必要な多文化共生意識を地域住民に対して醸成するには、「やさしい日本語」を使って外国人と気軽にコミュニケーションをとることは非常に有効である。その認識に基づき、公民館等を核とした多文化共生型地域社会の実現を目指して、今後も事業に取り組んでいきたい。